

図書館だより

NEWS

『私の薦める一冊の本』紹介文の入賞者決定

今年、381点の応募があり、厳選した結果、以下の10作品が入賞作品として決定しました。12/21に、焼山図書館長より入賞者へ図書カード2千円分が贈呈されました。本号では入賞作品を紹介します。

- 『孤独の価値』..... 1年1組 筒井 彬尊
- 『生まれる』..... 1年2組 原田 平
- 『リバース』..... 1年3組 山下 友彩
- 『夏の庭』..... 1年4組 森田 小百合
- 『何のために「学ぶ」のか』..... 1年5組 松尾 聖
- 『また、同じ夢を見ていた』..... 2年3組 中満 俊介
- 『ぼくは勉強ができない』..... 2年4組 河野 凌雅
- 『おもかげ復元師』..... 電気工学科3年 江崎 公志朗
- 『ちょっと今から仕事やめてくる』..... 機械工学科4年 石川 大樹
- 『99.9%は仮説 思いこみで判断しないための考え方』..... 機械工学科4年 衛藤 拓也



焼山図書館長と入賞者(12月21日)

新設コーナー

『私の薦める一冊の本』紹介文の入賞作品を集めたコーナーを作りました。紹介文を読んで興味を持ったら、是非、借りて読んでみてください。



本の購入リクエストの募集

授業で薦められた本が図書館にない！レポートを書くのに必要な本がない！など困ったことはありませんか？ 図書館では、学生の皆さんのリクエストを募集しています。リクエストは、図書館設置のリクエストボックスに入れるか、図書館HPでも申し込めます。気軽に申してください。 <http://www.or.ariake-nct.ac.jp/lib/>



美術ギャラリー

図書館棟1階の美術ギャラリーの作品入替を11月26日に行いました。大牟田美術協会のプロの作家の作品39点を展示しています。毎年新作を展示していますので是非ご鑑賞ください。(作品紹介は裏面)



美術ギャラリー入替風景(11月26日)

開館スケジュール

1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1/20(金)-21(土)は、推薦入試・準備のため

2月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

2/17(金)-20(月)は、入試・準備のため
2/23(金)-28(火) 書架搬入・準備のため

3月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

通常開館:8:30~20:00

休館日

土曜開館:10:00~16:00

日中のみ:8:30~17:00

午前中のみ:8:30~13:00

「私の薦める一冊の本」 紹介文入賞作品紹介



「孤独の価値」

森博嗣著

1年1組 筒井 彬尊

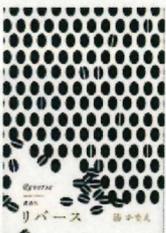
私の薦めるこの本は、「孤独」に対しての一般的な考え方とは違う方向から見た価値観について書かれた人生論です。

「孤独」とは、普通に考えると、寂しさなどといった嫌なことをもたらすものですが、逆に自分の思い描いた「自由」を生きることができるという百八十度反対の考え方で書かれています。障害を乗り越えるのではなく、受け入れて、自分のものとするという考え方で一般的な対処方法とは違い新しい意見として活路が開けるかのような本です。

私も、この本を読むまでは、「孤独」に対して嫌なものという認識しかありませんでした。しかし、読んだ後では、「孤独」にも捨てがたい価値があるのだと思いました。

「孤独」とは、上手く付き合っていくことが大切なのだと思います。

ちなみに、著者の森博嗣さんは、工学博士なので、高専生にとって読んで損はないと思います。ぜひ読んでみてください。

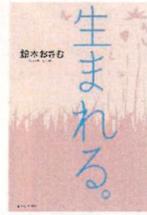


「リバーズ」

港かなえ著

1年3組 山下 友彩

自分の恋人が殺人犯だと知ったら…。あなただったら何をしますか。どんな言葉をかけますか。これは、コーヒーを飲むことが好きな平凡なサラリーマンの深瀬和久と駅の近くのパン屋で働く越智美穂子という女性のカップルの間で起こった物語です。最初にこの本を書店で手に取ったとき、なんて残酷で悲しいお話なのだろうという印象を受けました。私だったら、耐えられないだろうというのが素直な感想でした。これは私だけでなく、誰もが抱く当たり前の感情だと思います。本を読み進めると、一つ一つの出来事の点と点がつながっていくので、とても感動しました。そして、最後には予想もしていなかった結末が待っています。その結末に、彼女である越智美穂子の強さを感じます。少し変わったミステリーに出会いたいという方にはとてもおすすめのお話です。また、このお話には色々なコーヒーが登場します。読書の秋に、コーヒーを飲みながら読んでみてはどうですか。



「生まれる」

鈴木おさむ著

1年2組 原田 平

私は、この本を読んで様々なことを考えさせられ、多くのことを知ることができました。

この本は、51歳の女性が妊娠をして、その家族や周りの人が様々なことを考え、母の妊娠をきっかけに家族の絆が深まっていくという話です。この本は、現代でも問題になっている「高齢出産」を題材としています。高齢出産には、たくさんのリスクがあり、障害を持った子供が生まれる確率も高くなるそうです。また、不妊治療や養子、羊水検査など私が聞いたこともないような検査についても知ることができました。

私は、この本を読んで赤ちゃんが生まれるということは奇蹟なのだと、改めて感じました。この本は、私たちに多くのことを伝え、「赤ちゃんが生まれる」という一人の人生を生むことについての責任や重みというのを教えてくれる、そんな本になっています。ぜひ、大人に近づこうとしている私たちの世代に読んでほしい本です。



「夏の庭」

湯本 香樹実著

1年4組 森田 小百合

私が紹介する本は、湯本香樹実さんの『夏の庭』という本です。この本は三人の小学六年生が、今まで自分達が生きてきた狭い世界ではなく、大人が生活しているような広い世界の住民である「おじいさん」と関わることによって大人になっていくという話です。

私がこの本を選んだ理由は、私自身も気になっていた死ぬまでの過程や死んだ後はどうなるのかなどについて三人の小学六年生が真剣に話し合っている場面にとっても惹かれたからです。「死」に対して好奇心を持っていた三人は身近な人の「死」によって思いもよらないほど悲しみました。

私は三度、身近な人を亡くしたことがあるのでこの本を最初に読んだとき「死」に対して軽い気持ちを持ち過ぎではないかと思いました。しかし、身近な人の「死」を受け入れることにより今の自分の世界を冷静に見つめることができ、新しい世界へ踏み込んでいく姿がとても格好良く感じました。



「何のために「学ぶ」のか」

外山 滋比古 他著

1年5組 松尾 聖

私がこの本を薦める理由は「学ぶ」ということについて、私達が忘れかけていることを思い出させてくれると同時にさらに深く「学ぶ」ことについて教えてくれるからです。

この本を読んで私は「勉強」に対しての自分の考えを改めることができました。

今まで自分が行ってきた勉強はこの先の人生を生きていく中で、無意味なことだったとこの本を読んで気がついたからです。皆さんは目の前のテスト、試験に向けて習ったことをそのまま頭に詰め込んで答案用紙に書き込んで良い点数を取って安心していませんか。私は過去の自分がまさにこうでした。点数を取ることが一概に悪い訳ではありません。しかし、そういう勉強を続けていても、将来を考えるとあまり意味のあるものにはならないと思います。

この本を読んで自分の「勉強」に対する価値観、「学ぶ」に対する価値観を変えてみませんか。



「また、同じ夢を見ていた」

住野 よる著

2年3組 中満 俊介

幸せとは。人生とは。あなたは深く考えたことがあるだろうか。この本はこのとてつもなく難しい課題をスーと体に入ってくる優しさで教えてくれ、読んだ人をほんのり温かく幸せな気持ちにさせてくれる。

主人公は生意気な女の子の奈ノ花。友だちは尻尾の短い猫と三人の女性。三人が口をそろえて言う『また、同じ夢を見ていた』の意味とは。誰しももう一度やり直したいと思った事があるだろう。そんな経験が良くても悪くても次に幸せにつながっていける。この本を読むとそんな気がしてくる。

気難しい感じの文章で多少入ってきづらいものもあるが、要所要所で力のあるフレーズが入ってくる。『人生はプリンみたいなものってことね』と奈ノ花は言う。人生は甘いところをほしがる人もいれば苦いところを有難がる人もいる。一言一言に多面的な意味を持った言葉がこの本にはつまっている。あなたも何かを探しに旅にでかけてみないか。



「ぼくは勉強ができない」

山田 詠美著

2年4組 河野凌雅

直球すぎる題名のように主人公、時田秀美は素直だ。しかし、ただ素直な高校生という訳ではない。彼が持っている素直さは教師の言うことをそのまま聞き入れるそれとは違う。自分の考えに素直なのだ。学校内で起こる問題や疑問を、そういうものなのだ、等と偏見や固定観念で解決させようとするものなら、彼の素直で直球な意見が見事なまでに突き刺さる。理不尽なことが多い世の中で、それはおかしい、と指摘するのはなかなか難しいが、彼は自分の意志を伝え指摘するのだ。その時は、よく言ってやった、と誉め称えたくなる。しかし、解決策はどうするのだ、という疑問も生まれてくる。偏見によって今まで解決したとされていたものを、根本から解決しようとするかなりの時間と知恵と協力を要するだろう。そのような当たり前のように日常に溶け込んでいる難しい問題について、考えるきっかけをこの小説は用意してくれるのだろうと思う。



「おもかげ復元師」

笹原 留似子著

電気工学科3年 江崎 公志朗

復元師？ 聞いた事のない言葉のタイトルの目が留まり、手に取った。そこには納棺師の笹原さんという一人の女性が、死とは何か、死の現場では何が起きているのか、見送る現場で何を感じ、何を伝えてきたのかが書き綴られていた。

笹原さんは、2011年3月に起きた東日本大震災で亡くなられた方々へ復興ボランティアとして活動された。数多くの現場で例えようのない悲しい現実と向き合ってきた彼女の一つ一つの“御縁”を綴ったこの本は、読み進めるたびに涙があふれ体が震える想いだった。

「生きることと死ぬことは背中合わせ。誰にも避けられないもの。だからこそ、死の向き合い方を知っておくことは、生を知ることになる。」と彼女は言う。

1日は24時間。これは皆に平等に与えられた時間。その時間をどう過ごすのか、どう大切に向き合えるのか。それは私たち一人ひとりに委ねられているのではないか。この本との“御縁”により、そう思えるようになった。



「ちょっと今から仕事やめてくる」

北川 恵海著

機械工学科4年 石川大樹

『ちょっと今から仕事やめてくる』という興味深いタイトルに目を惹かれた。手に取ってみると、主人公がいわゆるブラック企業にこき使われ神経衰弱に陥り堪え兼ねて線路に飛び込み自殺を図ったところ、自称元同級生の謎の男ヤマモトに助けられる。次第にヤマモトと仲良くなり、謎の正体を突き止める。

最後は、ヤマモトが体験してきた自分にしか伝えることができない大切なことを主人公に伝える。

サービス残業や職場でのイジメは、残念なことに珍しいものではない。そして、仕事をやめるという選択ができずに自ら命を断ってしまう人も、残念ながら少なくない。この本はそんな選択肢が見えなくなっている人にぜひ読んでもらいたい一冊である。冷静な時に考えたら、仕事を辞めることと生きるのをやめることはどちらがつかいかわかるはず。そんな当たり前のことを、小説『ちょっと今から仕事やめてくる』は思い出させてくれる。



「99/9%は仮説」

思いこみで判断しないための考え方」

竹内 薫著

機械工学科4年 衛藤拓也

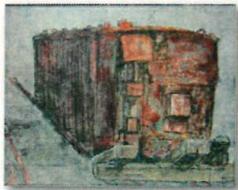
「いきなりですが、あなたの頭はどれくらい柔らかいですか？」という問いかけと共に、私達が見ると違和感を覚える世界地図が、冒頭から現れます。その違和感を覚えた時点で頭はすでに固くなっているのです。

この本は頭を柔らかくするための薬として、「仮説」をキーワードとした、あらゆる科学的な事柄の本質に迫ります。

プロローグで、「飛行機が飛ぶ仕組みは、まだ完全に解明されていない」という、目を疑いたくなるような一文が飛び込んできます。どのように飛ぶかは予測できても、なぜ飛ぶのかという根本原理は分からないらしいのです。その他、「実はこれもよく分かっていない」という話が出てきて驚かされます。

この世の中における、当然だと思われている事柄は全て「仮説」なのです。それに支配される事なく、それを「疑う」ことによって世界の見方を変えてみませんか？

2017年度美術ギャラリー作品介绍



『廃車』藤吉美保子



『アジサイ』小柳規久絵



『れもん』角久仁子



『三池古道』
桑野禎子



『残雪』
田中千鶴



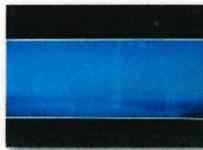
『早春』木村和子



『祭の日』石井保



『朝陽阿蘇』加治屋陸



『やすらぎの詩』
木戸直道



『段原から大船山を望む』
西川正人



『実りの秋』黒田満里子



『百合の花』松尾正勝



『水ぬるむ』
牟田志津子



『中国の屋根』
院丸憲之



『杉並木』堤和則



『望』横山多佳枝



『少女』松尾忠之



『花』岩本久子



『菜の花と甘木山』
永井正文



『新生』塚本和美



『ガーデン』田中洋子



『未来へ』鶴由海子



『木立ち』
清水正敬



『ふきのとう』
上村恵子



『流れゆく刻』
奥苑和司



『伝統継承』
河野孝宏



『成人の日』
ふるいけ博文



『熱唱』
井上林



『午後のひととき』
渡辺和彦



『清めの水』
高口博文



『穏やかな一刻』
渡辺精之



『乙女の祈り』
藤崎聖二



『ガラス床』
田中浩久



『迷』
奥蘭千万喜



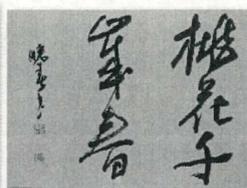
『心閒意適』
川崎みどり(緑水)



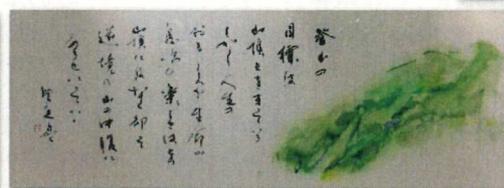
『恵外鳥聲聞』山口修一(八石)



『大牟田行進曲』山下溪泉



『桃花千歳の春』高井良暁春



『登山の』松尾理恵子

2016年11月26日(土)に大牟田美術協会の方々のご協力で作品を入れ替えました。是非、鑑賞にご来館ください。